

其音角律中姑洗淮南子いひ三月其名青章史記いひ三月を暮春末春晚春元帝纂要いひ三月季春

暮春載陽華節病月末垂事物紀原みえたりいづれも此月の別名なり

〔日本書紀神武〕乙卯年春三月

〔日本書紀通證神武〕三月彌生也月令季春是月也生氣方盛

〔古今和歌集春〕やよひにうるふ月のありける年とよめる

伊勢

櫻花春くは、れるとしたにも人の心にあかれやはせぬ

〔會禰好忠集〕暮の春三月はじめ

は、子つむやよひの月になりぬればひらけぬらしなわがやどの桃

〔秘藏抄上〕十二月異名 三月やよひ略 中はなさま月

〔莫傳抄〕十二月異名 花津月 夢見月 三月

〔藏玉和詞集〕十二月異名略 中 三藤雲雀 花見月 櫻月 春惜月

〔伊呂波字類抄字象〕四月律中仲呂俗云卯月

〔八雲御抄三上〕四月 うづき

〔下學集上〕仲呂 四月 麥秋 四月 卯月此月卯華盛開修景四月

〔二中歷歲時〕月倭名 四月俗說云四月山家牆根之間洩疏花盛開故稱此月爲

〔興義抄上末〕四月うづき うの花さかりにひらくるゆるに、うの花づきといふをあやまれり

〔東雅天文〕卯月といふ事は、詩の豳風に四之日といふ事を周正の四月は卯月也と見えしものと

もある也、周正のごときはさもこそあらめ、夏時を行はれんに至ては、四月を卯月といふべき事

にあらず、なごいふ事もあるべけれども、なを卯月といふ事は、たとへば上巳といふは、もとこれ

三月上旬の巳の日をいふ事なれど、魏晉より後には、巳の日にはあらねど、三日をもて上巳とい